



# 華となれ!

宮城県仙台二華中学校  
学校だより 第43号  
【発行日】平成31年3月19日  
【連絡先】022-296-8104  
【文責】  
副校長 阿部 一彦

【校訓】 『進取創造』『至誠貢献』

【教育方針】 豊かな心と高い知性を持ち、進取の気風と創造性にあふれ、社会のリーダーとして、わが国や世界の発展に貢献できる人間を育成する。

## 【 中学校 卒業式2】

3月16日(土)の卒業式での在校生代表による送辞と、卒業生の答辞をご紹介します。

### 送辞

校舎そばの花壇の水仙も芽を伸ばし、春の訪れを感じる季節となりました。

本日、晴れて仙台二華中学校卒業式を迎えられた先輩方、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表いたしまして、心よりお祝い申し上げます。

今、振り返ってみますと、先輩方と過ごした楽しい日々が、つい先日のことのように思い出されます。

先輩方は、常に私たちのお手本となり、優しく導いてくださいました。

合唱コンクールでは、クラスのハーモニーの美しさに圧倒されました。「きみ歌えよ」「はじまり」「言葉にすれば」。先輩方一人ひとりの声が、観客席に届きました。私たちの胸には、あの団結力を見習いたいというあこがれが生まれました。

体育大会や球技大会でも、先輩方のチームワークを感じることがありました。空いている時間に、ご自分たちのはちまきをつないで、大縄跳びの練習をしている姿。勝ちにこだわり、そして何よりも今、この瞬間をみんなで楽しもうとしている姿に胸を打たれました。

文化祭では、最高のものを作り上げようと、ひたむきに取り組まれる姿がとても輝いて見えました。学年の枠を越えて、二華中生が一つにまとまり、成功したときの喜び。先輩方の努力。終わったあとの達成感は、いまでもはっきりと覚えています。

また、行事だけではなく、普段の生活でもたいへんお世話になりました。部活動で、ご自分たちの練習で忙しいにもかかわらず、私たちの練習のために時間を割いていただいたこと。部活動で先輩方が自主練習をしているときに、私たちにも声をかけて、仲間に入れてくださったこと。学年や部活動などの枠組みは関係なく、優しく接してくださったこと、私たちは忘れません。

これから、先輩方はご進学され、それぞれの夢に向かって歩まれていくことと思います。その道のりは、決して楽しいことばかりではないと思います。時には、立ち止まることもあるかもしれません。そんな時は、中学校で過ごした日々を思い出してください。仲間との思い出や、積み重ねられた知識と経験が、大きな支えとなってくれるはずです。そのときに、微力ながら私たち後輩も、先輩方を応援していることを思い出していただけると幸いです。先輩方はいつまでも、私たちのあこがれです。進学した先輩方とまた、一緒に活動できることを楽しみにしています。

在校生代表



## 答辞

桜のつばみもほろび始め、暖かな陽気から、春の訪れを感じる季節となりました。本日は、私たちのためにこのようなすばらしい式を挙げていただき、本当にありがとうございます。また、山内校長先生、中学校 PTA 会長佐藤様をはじめ、ご来賓の方々から温かいご祝辞と励ましの言葉を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

少し大きな制服に身を包み、初めて校門をくぐったあの日からはや三年。振り返ると、一つ一つの思い出が今、昨日のこのように思い出されます。

期待と不安の入り交じった気持ちでいっぱいだった一年生。小学校とは全く違う環境に、最初は戸惑うばかりでした。しかし、そんな戸惑いや不安も、先生方や先輩方が温かい手を差し延べてくださったおかげで、いつの間にか消えていきました。県内各地から集まった仲間とも次第に仲良くなり、中学校生活は、日増しに充実したものに変わっていきました。



初めての後輩ができ、「先輩」と呼ばれるようになった二年生。北上川でのヨシの移植活動や職場体験など、多くの人々と出会い、様々な経験を積むことで、視野を広げ、将来について考えを深めることができました。

そして迎えた、三度目の春。私たちは最高学年としての責任と自覚を持ち、全力で駆け抜けました。部活動では、自分たちが主体となり、それぞれの目標へ向かって、活動しました。多くの仲間が戦った最後の中総体では、会場は違っても、二華中生全員の気持ちが一つになっているのを実感しました。喜び、そして涙。本気で努力した分、様々なドラマが生まれました。多くの部が上位入賞を果たし、大きな自信につながりました。

文化祭では、四つの部門に分かれて、夏休み前から準備を重ねました。去年よりもいいものにしたい。そんな思いを抱いてそれぞれが一生懸命に準備に取り組みました。一年生から三年生までの共同作業は、指示が伝わらなかったり、なかなか意見がまとまらなかったりと、大変苦労しました。しかし、文化祭当日は、全グループが準備の成果を出し切り、盛況のもとで幕を閉じることができました。大成功で終わった瞬間の、あの感動と達成感。この時ほど、仲間との絆を実感したことはありませんでした。

心待ちにしていた研修旅行では、「一粒万倍」というスローガンのもと、香港・マカオで様々な経験をしました。同世代の香港の人々との交流を通して、日本語以外での意思疎通の難しさを知ると同時に、自分の意志が相手に伝わった時の嬉しさを感じました。

グローバル化が進む現代において、自分たちがこれからどう生きるべきか。未来を真剣に考える良い機会となりました。

そして買い物や、乗り物に乗るために走り回った、ディズニーランド。寝不足になるほど笑い、語り合った、ホテルでの夜。どれもが忘れることのできない大切な時間でした。

今、私たちは新たなスタートラインに立っています。これまで、勉強だけでなく、人としての大切なことを教え、導いてくださった先生方、本当にありがとうございました。

在校生の皆さん。今まで、先輩として頼りない私たちを支えてくれたこと、心から感謝しています。みなさんと過ごした多くの時間。私たちは決して忘れません。新しい二華の伝統を、四月に入学する一年生と共に築き上げてください。

ここまで育ててくれた家族の皆さん。十五年間、私たちのことを優しく見守ってくださり、ありがとうございます。時には生意気なことを言って困らせたこともありますが、思春期で揺れ動く私たちの心を、大きな愛情で包み込んでくれました。その愛情のお陰で私たちは今までくじけることなく、成長することができました。その変わらぬ優しさへの感謝を胸に、目の前に広がる、希望に満ちた道を、一步一步確実に進もうと思います。

一緒に卒業するみんな。今、私たちは義務教育を終え、羽ばたこうとしています。これから進む道は平坦な道ばかりではありません。時には障害があるかもしれません。でも、私たちには二華中学校で共に学んだ仲間がいます。変わることはない強く深い絆、変わることはない二華中学校での思い出があります。二華中学校第七期卒業生であることに誇りを持ち、力強く歩んでいきましょう。

最後になりましたが、皆様のご健康と、仙台二華中学校のますますのご発展をお祈りし、答辞といたします。

平成31年3月16日

卒業生代表